

学校運営協議会だより

令和6年2月29日(木)



来年度に向けての意見交換

2月22日(木)に、第2回学校運営協議会が開催されました。はじめに、「学校評価」の結果をもとに今年度の教育活動報告と、来年度の学校経営計画について提案を行い、その後、来年度に向けての意見交換を行いました。

学校評価では、「楽しく学校生活を送っているか」が児童・保護者共にABが95%を超えた。落ち着いた学校生活を送ることができた。いじめ事案の報告は34件あり、児童が不安を抱えた時は、それを乗り越えられるような支援と丁寧な対応をしてきた。「あいさつ」「思いやり・温かい言葉」は昨年度を超える評価をいただいた。学習面では、真剣に学ぶ子ども達である。確かな学力として一層力を伸ばしたい。家庭での学習をいかに自分のものとするかが課題。

来年度は、地域力を生かした学習を推進し、学力の向上を目指す。温かい学校・学級の中で、夢(目標)をもってその実現を目指す子ども達を育てていきたい。

子ども達の様子について

- ・ いい顔をしている。あいさつの声が響いてくる。生き生きとした表情で、「6年生を送る会」を楽しんでいた。
- ・ 子ども達の言葉から温かい学校づくりになっていることを感じた。
- ・ 気配りができる6年生であった。縦の強い関わりがあって、仲が良く認め合う様子が感じられ、深い関わり合いができています。縦割り班活動を今後も大事にしてほしい。
- ・ リーダーを育てる。縦割り班活動をどんどんしてもらい、「リーダーの役割をもたせる」、「面倒をみる」、「世話をする」ことで互いの絆を深めると同時に、その子ども自身が育つことが期待される。



地域との連携事業について

- ・ 門松作り、小正月など大変お世話になった。地域にある行事を今後とも学校教育と関連させて伝えていくことで、地域との関わりを持っていく。コロナ以前は小正月で田楽を食べていた。アレルギー対応もしながら、伝統的な食文化を話す機会があるとうれしい。食育にも関連することなので、学校と給食の調整をしながら進めていく。
- ・ 資源回収について、1回でいいのではないかという意見も出ている。資源回収で得た収益金を学校の教育資金にしていることや保護者数が減少している状況、地区の方の理解も踏まえながら、今年、検討事項とする。
- ・ 地域へのあこがれを抱かせるような、教育活動の展開を期待したい。「北谷地はどんなところ」、「住みよくするためには」、「よくするには自分ができることは何か」など課題意識をもって、地域で学んだことが次の一歩につながるとよい。

その他

- ・ 児童数減少に伴い、今後の複式学級出現状況の推移を確認し、教育活動の整理をしていく。
- ・ 学校では、教員業務支援員(スクールサポートスタッフ)を募集している。

たくさんのご意見ありがとうございました。